

脳画像をツールに 精神疾患の新規治療法開発を目指す

高橋 英彦 先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
精神行動医科学分野主任教授

Profile

1971年滋賀県生まれ。1997年東京医科歯科大学医学部医学科卒業。2006年放射線医学総合研究所分子イメージングセンター主任研究員、2008年カリフォルニア工科大学生物学科留学、2008年科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業さきがけ研究員(兼任)、2010年京都大学大学院医学研究科講師、2011年准教授を経て2019年2月より東京医科歯科大学医歯学総合研究科精神行動医科学分野主任教授。



意思決定の脳内メカニズム研究の道へ

—まずは、先生が医師になられるまでの道のりを教えてください。

私の生まれは滋賀県ですが、転勤族の父とともに生後3ヵ月でロンドンに渡り、小学校に入学するまで海外で育ちました。帰国後も小学校、中学校ともに3回ずつの転校を経験し、思春期を目まぐるしく変化する環境のなかで過ごしました。ちょうどその頃、親族に定期的な通院を必要とする子がおり、その子について

見聞きするたびに「かわいそうだな、大変そうだな」と感じていました。その子の存在もあってか、漠然と医療に関心を寄せるようになりました。

高校に進学するころには、医師の道が具体的な進路としてみえていました。授業では、合理的な思考で答えを導き出せる理系科目に対し、客観性に乏しい文系科目を点数で評価するのはおかしいと納得していないところもありましたが、文系科目に取り組むのも好きでした。精神科のなかでも比較的理系寄りの研究をしていますが、精神疾患の認知障害をテーマに心理学、経済学や社会学の研究者との学際的な共同研究を手が